

令和2年
6月26日

病害虫発生予報 7月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

防護装備（マスク・保護メガネ・防護衣）をきちんと着用しましょう
～令和2年度茨城県農薬危害防止運動期間(6/15～9/14)～

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稻：いもち病（葉いもち）	1
【防除所レポート】BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の状況	1
【防除所レポート】クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測	2
ナシ：黒星病・ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）	3
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測	4
果樹共通：チャバネアオカメムシ	4
夏ネギ：黒斑病・ネギハモグリバエ	5

【その他の病害虫】

水稻，サツマイモ，ナシ，ブドウ，夏ネギ，夏秋ナス，共通害虫	6
-------------------------------	---

II. 今月の気象予報 7

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>
フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QRコード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾（本年値 0.4、平年値 0.1）および発生地点率（本年値 7%、平年値 3%）はともに平年よりやや高い。
- ② 葉いもちの感染好適条件（BLASTAM²⁾による）は、6月第3-4半旬に県内の広範囲で認められ、6月第5半旬までの出現日数は平年よりやや多い（下記、防除所レポート参照）。
 - 1) 発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
 - 2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田およびその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。
- ② イネの葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努め、発生初期に防除を実施する。
- ③ 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ④ 粒剤およびジャンボ剤で防除する際は、効果が現れるまで時間がかかるため使用時期に注意するとともに、湛水状態で薬剤を散布し、1週間は止水して湛水状態を保つ。
- ⑤ 殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を選択する。
(令和2年6月26日発表 病害虫速報 No.2 参照)

防除所レポート [BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の状況について]

- ① 葉いもちの感染好適条件（BLASTAM¹⁾による）は、6月第3-4半旬に県内の広範囲で認められ、6月第5半旬までの出現日数は平年よりやや多い（表）。
- ② 葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7～10日後に始まると考えられる。曇雨天が続く等、発病の好適条件が見られる場合はいもち病の発生に注意する。
- ③ 各地点の BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の詳細については、病害虫防除所ホームページで情報を随時更新しているので参考にする。

1)BLASTAM：アメダスデータ4要素（気温、降水量、風速、日照）から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。

表 BLASTAM¹⁾による葉いもちの感染好適条件の地域別の平均出現日数（6/1～6/25）

	県北	県央	鹿行	県南	県西
本年値	2.5	0.5	3.5	2.3	4.3
平年値	1.1	1.5	1.0	1.4	1.4

注) BLASTAM は、広域にいもち病が感染する時期を推定するシステムであり、特定地点の発生を予測するものではなく、周辺地点の感染好適条件の出現状況も併せて判断する。最寄りのアメダス地点で感染好適条件が出現していなくても、圃場によっては感染に好適な条件になっている場合もある。



水稻における紋枯病の防除対策について

近年、病害虫防除所が調査している水稻圃場において、紋枯病の発生が多い傾向にあります。紋枯病は、前年のイネの病斑上に形成された菌核が圃場にとどまり次作の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。昨年、発生が多かった圃場では特に注意して対策を行いましょう。

[特徴]

前年の被害株や畦畔等の罹病雑草に形成された菌核で越冬し、伝染源となる。菌核は代かき時に水面に浮上し、株元に漂着する。気温が上昇し、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長して葉鞘内に侵入し始め、楕円形病斑をつくる。本病にかかると、下葉からしだいに枯れ上がり、イネの茎が弱くなって倒伏しやすくなる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 病斑は水際に近い下部の葉鞘から現れ、次第に上位に進展するため、薬剤散布は下部の葉鞘にまでかかるように行う。
- ② 前年発生がみられた圃場では本病が発生しやすいため特に注意し、発生が認められた場合には早期に防除を行う。

防除所レポート [クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測]

[クモヘリカメムシの産卵開始時期]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測した産卵開始時期は平年並である（表）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。
- ④ ミツバチへの被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8～12時まで）の農薬の散布をさける。

表 クモヘリカメムシの予測産卵開始時期¹⁾

	常陸大宮市	北茨城市	水戸市	笠間市	鹿嶋市	土浦市	筑西市	全県平均 ²⁾
本年値	7/23	8/11	7/18	7/17	7/18	7/12	7/9	7/18
平年値	7/23	8/10	7/18	7/14	7/20	7/13	7/13	7/18

1) 今後の気温が平年並に推移した場合(6月25日現在)。

2) 表に示した地点以外も含む。

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，発病果率（本年値 1.6%，平年値 0.3%）は平年より高く，発生地点率（本年値 50%，平年値 35%）は平年並～やや高い。
- ② 6月下旬現在，発病葉率（本年値 2.1%，平年値 0.8%）は平年より高く，発生地点率（本年値 70%，平年値 61%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 降雹，降霜等により着果数が減少した園では，新梢の発生が多くなり薬液がかかりにくくなる恐れがあるため，新梢を適切に誘引し薬液がよくかかるようにする。
- ② 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める等，適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は，発病部位を除去した後にを行うと防除効果が高い。
- ④ 果実での発病が増えやすい7月上中旬は，参考防除例に従い QoI 剤および DMI 剤を適切に散布する。
- ⑤ 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，被害果を認めず平年並である。
- ② 6月中旬までのフェロモントラップへの第一世代成虫の総誘殺数は，かすみがうら市で平年より多く，土浦市および石岡市で平年よりやや多く，小美玉市で平年並～やや多く，笠間市で平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は，土中深く埋める等速やかに処分し，成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。
- ③ かすみがうら市，土浦市，筑西市の防除適期については，今後，病虫害防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

（次頁，防除所レポート参照）

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は、第二世代成虫の誘殺数がピークに達した日の1～2日後である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は、第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第三世代幼虫の予測防除適期

地点	第三世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市（旧友部町）	7月21日	～	7月25日
石岡市	7月15日	～	7月20日
かすみがうら市	7月11日	～	7月15日
土浦市	7月11日	～	7月15日
筑西市(旧下館市)	7月14日	～	7月18日

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(6月26日現在)。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月第3半旬までの予察灯への総誘殺数は、笠間市および水戸市の県予察ほど平年より多く、かすみがうら市で平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園への飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤散布を行う。

夏ネギ

1. 黒斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病度^{*}（本年値 5.9，平年値 2.4）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 88%，平年値 43%）は平年より高い。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布は，必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 肥料切れや多肥は発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

2. ネギハモグリバエ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，被害度^{*}（本年値 6.1，平年値 6.6）は平年並，発生地点率（本年値 88%，平年値 76%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害度の高い圃場がみられる。今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 薬剤散布は，必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

施設野菜（ピーマン）の栽培終了後の管理について

促成・半促成ピーマンにおいて，アザミウマ類が媒介する黄化えそ病の発生を一部圃場で認めました。

栽培終了後の施設では，次作の病虫害防除のための管理を適切に行いましょう。

アザミウマ類等の微小害虫は，各種ウイルス病を媒介するので，ハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため，株を抜き取り誘引したまま2週間程度ハウスを密閉する蒸し込みを行います。蒸し込み終了後は，作物残渣をハウス外へ持ち出して適切に処分してください。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量:多い	県西地域, 県南の一部地域におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が, 11 地点中 10 地点で 5%以上の高い値となった(令和 2 年 6 月 5 日発表 病害虫発生予察注意報第 2 号参照)。
	ニカメイガ	発生量: やや多い	6 月下旬現在, 平年並の発生である。フェロモントラップへの総誘殺数は, 筑西市で平年より多く, 龍ヶ崎市で平年よりやや多い。
	イネツトムシ	発生量: やや多い	6 月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。葉色が濃い水田では発生に注意し, 発生が多い場合には, 幼虫が小さいうち(葉先が巻かれ始める時期)に防除を実施する。
イサツモ	ナカジロシタバ	発生量: 平年並	6 月下旬現在, 平年並の発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量: 平年並	6 月下旬現在, 平年並の発生である。気温の上昇に伴い発生が助長されるので注意する。
ブドウ	褐斑病	発生量: やや多い	6 月下旬現在, 露地圃場で発生を確認し, 平年よりやや多い。参考防除例を参考に, 袋掛け前の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量: 平年並	6 月下旬現在, 平年並の発生である。
	べと病		
夏ネギ	べと病	発生量: 平年並	6 月下旬現在, 平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量: 平年並	6 月下旬現在, 平年並の発生である。
ナ夏秋	アザミウマ類	発生量: 平年並	6 月下旬現在, 平年並の発生である。
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量: やや少ない	6 月下旬現在, 平年よりやや少ない発生である。
	オオタバコガ	発生量: 平年並 ~やや多い	6 月下旬現在, 平年並~やや多い発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 6月27日から7月26日)

気象庁(6月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 6月27日(土曜日)から7月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 7月4日(土曜日)から7月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 7月11日(土曜日)から7月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(令和2年4月24日発表)の防除所レポート参照